

コミュニケーション力 自己診断プログラム(GC-SD)

コミュニケーション力自己診断プログラムのご案内

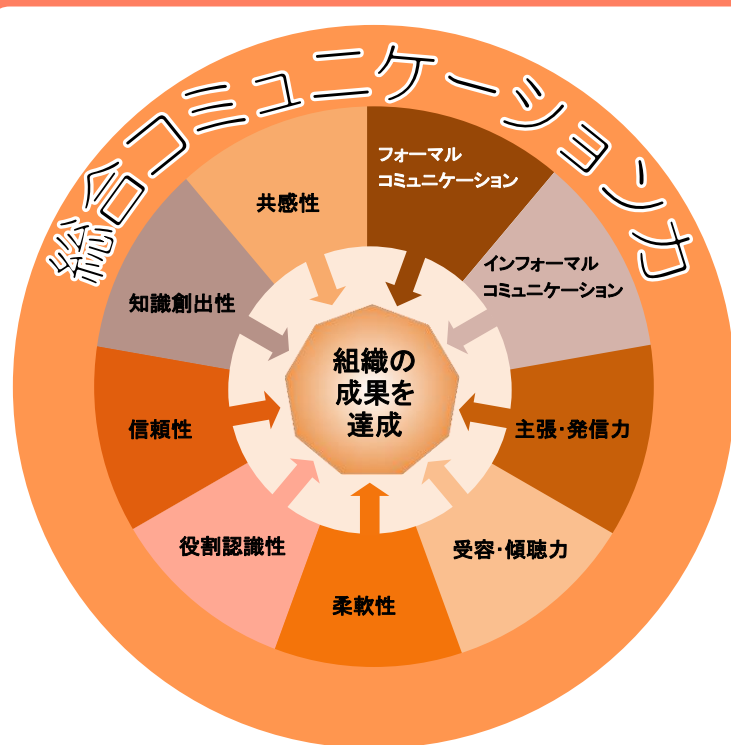
いまという時代、組織の継続的成長と成果追求には、組織内外における環境変化に前向きに対応していくことが必要です。このためには、組織と組織を構成する個人が、ともにグッド・コミュニケーション(GC)の状況にあることが欠かせません。コミュニケーションをグッド・コミュニケーションの水準に保つことで、社・職員一人ひとりが能力をよりよく発揮でき、より高い水準にて職務を達成できます。本自己診断プログラムを用いて現状のコミュニケーションレベルを自己診断することで、一人ひとりに焦点を当てた能力開発と組織におけるコミュニケーション力を強化することができます。そして成果を挙げる組織への変身が可能になります。能力開発のさらなる推進とよりよい成果を目指して、コミュニケーションについての自己診断をお勧めします。

本プログラムの特長

- ◆Web上の **45の設問** に答えることで、成果を産み出すために必要なコミュニケーション力を今、どの程度保有し、発揮しているかについて確認できます。
- ◆いま発揮しているコミュニケーションのどの領域が強く、また弱いのが一目でわかります。
- ◆組織全体でのコミュニケーション力や職種別・年代別でのコミュニケーション力がわかります。(オプション・レポートを参照する場合)

メリット

- ◆高い成果を産み出すために必要なコミュニケーション力を 9 つの切り口からわかりやすく表示するため、コミュニケーション力の向上やコミュニケーション行動の変革に効果的です。
- ◆目標とする水準と自己診断の結果を比較することで、コミュニケーション力やコミュニケーション行動を考えるための必須情報が得られます。
- ◆職場でのOJTや、本人による自己啓発・研修受講に役立ちます。また、オプション・レポートを用いることで、組織の課題解決や人材育成を効果的に進めることができます。



自己診断が捉える要素別コミュニケーション力と
総合コミュニケーション力の関係

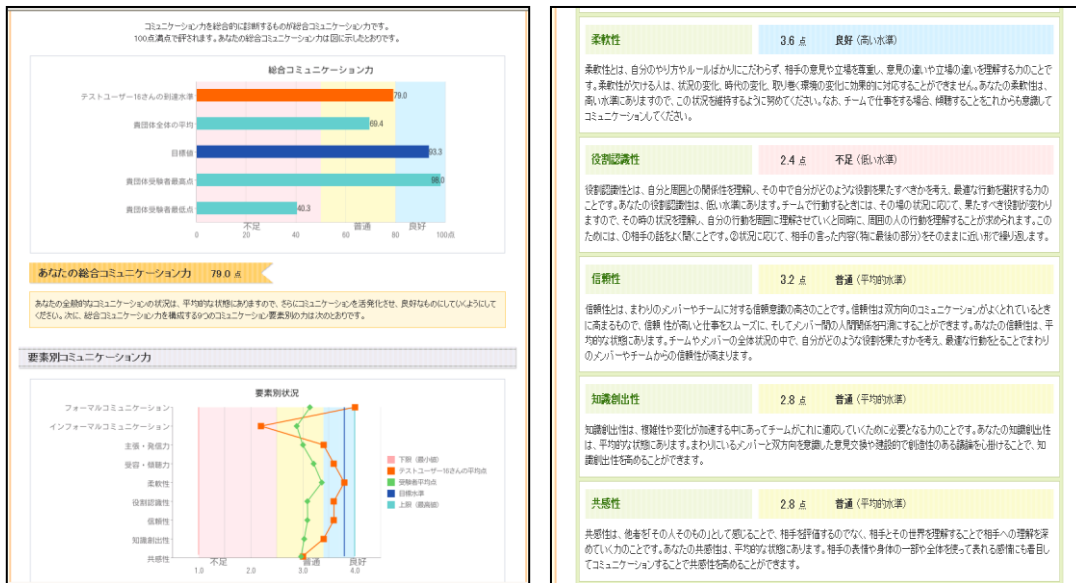
自己診断プログラムのコンセプトとフィードバックイメージ

画面に表示されるグッド・コミュニケーションについての要素別コミュニケーション力（9要素）と総合コミュニケーション力の状況を見ることで、自分の現状が理解できます。

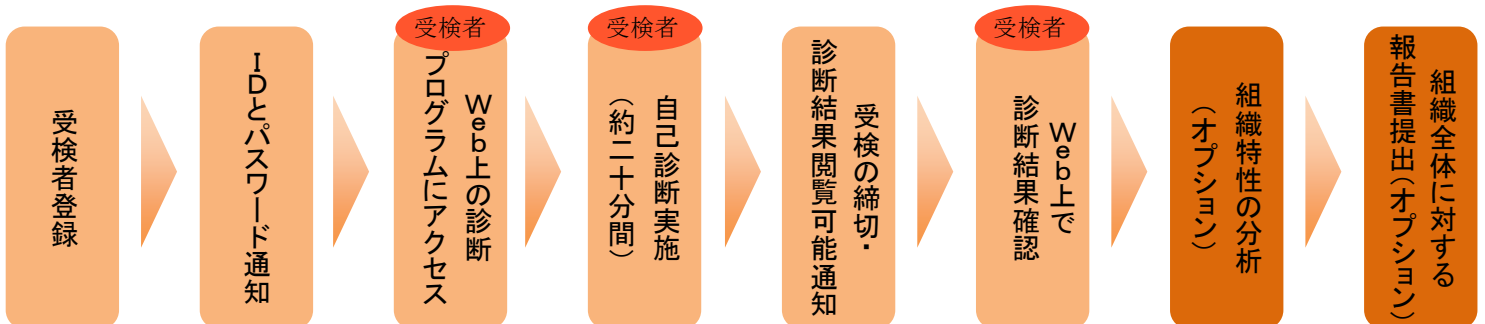
NOMA・コミュニケーション力自己診断プログラム(GC-SD)が捉える要素別コミュニケーション力

① フォーマルコミュニケーション	公式的かつ計画的に行われるコミュニケーションのことで、職場での会議や報告などの形で行われるものが一般的です。
② インフォーマルコミュニケーション	職場の中で、あるいは仕事を離れた場で非公式に行われるコミュニケーションのことで、フォーマルな情報を補完したり、新しいアイデアの創出につながる可能性を持ちます。
③ 主張・発信力	自分の意見をわかりやすく相手に理解してもらえるよう配慮して、的確に伝える力のことです。
④ 受容・傾聴力	相手が話しやすい雰囲気をつくり、相手の意見を自然に引き出す力のことです。
⑤ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、意見の違いや立場の違いを理解する力のことです。
⑥ 役割認識性	周囲との関係性を理解し、その中で自分がどのような役割を果たすべきかを考え、最適な行動を選択する力のことです。
⑦ 信頼性	まわりのメンバーやチームに対する信頼意識の高さのことで、
⑧ 知識創出性	複雑性や変化が加速する中においてチームがこれに適応していくために必要となる力のことです。
⑨ 共感性	相手とその世界を理解することで相手への理解を深めていく力のことです。

Web上で確認できるコミュニケーション力診断結果(個人へのフィードバックイメージ)



コミュニケーション力自己診断の流れ



利用料金

詳細については下記のお問合せ先までご確認ください。

お問合せ先

一般社団法人日本経営協会 経営研究センター

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-11-8 TEL 03-3403-1676 FAX 03-3403-1710 Eメール:center@noma.or.jp
http://www.noma.or.jp/